

昭和46年度チューリップの新品種解説

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	豊田, 篤治
巻/号	27巻5号
掲載ページ	p. 220-222
発行年月	1972年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



DCPAとエチルチオメトンの近接散布害の関係からエチルチオメトンの施用を中止しなければならず、エチルチオメトンの施用後であればDCPAの散布はやめて、入水後の機械除草を併用しなければならない。この点Bの体系では、エチルチオメトンがは種と同時に、は種後早い時期に施用されているため、は種後土壌処理剤の効果が劣る場合でもDCPAを散布することができる。Cの体系は重粘地などで十分な碎土、均平ができず、土壌処理剤の効果が期待できない場合にとる体系として効果的である。この場合のエチルチオメトンの施用はBと同様に行なう。

2) 雑草中庸田の場合 D：重粘地などで十分碎土、均平ができない場合は、防除の重点を水稻1.5葉期前後の生育処理剤の散布におき、これに水稻2.5葉期における生育処理剤の2回目散布か、たん水後処理剤、あるいは水稻の出穂40日前処理剤を、必要に応じて組み合わせるのがよい。E：碎土が十分に土壌処理剤の効果が期待される場合には、は種後におけるPCP、NIPあるいはベンチオカーブと、必要に応じての水稻生育期処理剤、たん水後処理剤、および出穂40日前処理剤を組み合わせる。

D、Eいずれの場合も、エチルチオメトンはBと同様に、は種と同時に、は種後できるだけ早い時期に施用する。

3) 雑草多発田の場合 水稻は種後における土壌処理剤と水稻1.5葉期を中心とした生育期処理剤、およびたん水後処理剤の組み合わせと、必要に応じての生育処理剤

の2回目散布、出穂40日前処理剤を加えた体系処理が必要である。ただしこの場合におけるは種後土壌処理剤は散布当時の気象条件によって選択する必要があり(B、Eも同様)、除草剤散布後に不良天候が予想される場合には、F：移動性が小さく薬害形成作用の比較的少ないPCPあるいはベンチオカーブを使用し、反対に除草剤の散布後に好天が予想される場合には、G：NIP、SAP・プロメトリンの散布が除草効果、薬害の面からみてよい。とくにSAP・プロメトリンは散布してから水稻が出芽するまでの期間に過湿、滞水状態になると著しい薬害を生じ、その回復に長期間を要するので、は場の周囲あるいは中央部に適宜排水みぞを設けるなどの措置が必要である。

なおこれらの体系におけるエチルチオメトンの施用はBに準ずればよい。

おわりに

乾田直まき栽培における除草剤使用上の問題点と、除草剤による雑草防除法についてその概要を述べたが、これらの除草剤として、いかなる条件に対しても常に高い除草効果を現わすものではない。したがっては場は十分に碎土、均平して雑草の発生を齊一にし、覆土も均一に行なうほど耕種操作を併用することによって効果の安定性を高めるように注意しなければならない。不幸にして除草剤の効果が劣り、雑草が多発した場合には、なるべく早くたん水し、機械除草を併用するなどの対策をわすれてはならない。(岡山県立農業試験場研究員)

昭和46年度チュールリップの新品種解説

豊田 篤治

トナミシチー

登録番地 チュールリップ農林4号(系統名: 砺波育成21号)

来歴 富山県農試砺波園芸分場において、昭和26年に、カメリヤ(Cameria ダーウィン 赤色花)にクレモイシブリアント(Cramoisi Brilliant 一重早咲赤

色花)を交配し、実生養成して選抜した。昭和39年に砺波育成21号を付し、検討の結果有望と認められたので増殖をつづけ、今日にいたっている。

品種分類ではTriumphに属する。

特性概要 花: 花色はクリーム色、内面はやや濃黄色、内花底および花糸、葯、花粉はいずれも黄色であ

第1表 露地栽培におけるトナミシチーの特性調査結果(昭39. 砺波園芸分場)

品 種 名	開花期	花縦長	花梗長	花梗径	葉 長	茎 長	草 丈	販売球収量(球)			総球数	同左比	総球重	同左比
								12cm	11cm	10cm				
トナミシチー	4月22日	6.0cm	21.3cm	6.4mm	23.0cm	41.2cm	36.9cm	95.2	0	28.6	423.8	150.1	5.61kg	126.2
ニフェトス	4月24日	6.3	24.3	5.2	21.2	44.9	35.9	83.2	16.7	0	266.6	94.4	3.79	85.2
レッドピット	4月26日	6.0	20.2	5.9	26.7	43.8	39.6	41.2	52.9	5.9	282.3	100.	4.44	100.

注) 地上部調査の供試球は12cm球、収量調査は10~11cm球100株当たり。

る。花形は豊満な整円筒形で花弁が厚く、硬い大花である。開花はやや晩咲で、標準品種 Red Pitt より4～5日早い。



〈トナミンチー〉

茎葉：花梗は緑色で毛茸を有し、甚だ太く剛直である。葉は濃緑色、大きさは中の大、縁波がほとんどなく、立性で強く、垂れることがない。茎長は約42cm、草丈約37cmで、草姿は甚だ良好である。

球根：やや長めの球形で、色沢よく、裂皮は少ない。大球性で分球繁殖力も大、対称品種 Niphetos より球数で約50%、球重量で約40%増収性である。

促成：促成感応度は中位であるが、W. Pitt より約1週間ほど開花が早い。しかし、超促成では開花率が劣る。半促成では、花色が淡いクリーム色となるのがやや難点であるが、草姿のよい堅い切花が得られる。

その他：ウイルス病に対しては、黄色花品種としては強い方で、葉色による罹病株の判定がつけやすく、病株抜取りが比較的容易である。ポトリチスその他の病害には一般に強く、栽培は容易である。

用途 花壇用、露地および半促成切花用。

栽培上の注意事項 発育強健で球根生産力が大、病害に強い方で、とくに問題はないが、ウイルス病が花色に発現しないので、葉の病状判定による病株抜取りを嚴重にする。

命名の由来 砺波園芸分場において砺波育成番号を付した初年度の系統の1つであり、当場所在地「砺波市」を象徴する品種としてトナミンチーと命名した。

クリスマスレッド

登録番号 チューリップ農林5号(系統名: 砺波育成25号)

来歴 富山県農試砺波園芸分場において、昭和26年に、ウィリアムピット (William Pitt ダーウィン 濃赤色花) にミスターバンジール (Mr. van Zijl ダーウ



〈クリスマスレッド〉

ィン 桃色花) を交配し、実生養成して選抜した。昭和40年に砺波育成25号を付し、露地および促成栽培における特性検定をおこなった結果、有望と認められたので増殖をつづけ、今日にいたっている。

第2表 クリスマスレッドの特性調査結果 (露地は昭40, 促成は昭41, 砺波園芸分場)

品 種 名	露地栽培地上部発育					同球根収量		促成栽培結果				
	開花期	花縦長	葉長	茎長	草丈	総球数	総球重	開花期	開花率	花縦長	茎長	草丈
クリスマスレッド	5月7日	6.5 cm	22.2 cm	42.3 cm	37.0 cm	385	5.64 kg	1月3日	100%	6.4 cm	34.1 cm	37.3 cm
ウィリアムピット	5月11日	6.4	21.8	45.0	42.0	422	5.05	1月18日	85.7	6.1	41.3	42.2
パールリヒター	—	—	—	—	—	—	—	12月22日	92.7	5.9	34.2	32.0

注) 露地栽培の供試球サイズは地上部調査12cm球, 収量調査10cm球。なお収量調査は100株当りの収量。
促成栽培の供試球は冷蔵開始8月4日, 13℃~2W→2℃~7W→13℃~1W, 定植10月18日, 加温12月1日。

第3表 露地栽培におけるオトメの特性調査結果 (昭41, 砺波園芸分場)

品 種 名	開花期	花縦長	花梗長	花梗径	葉長 cm	茎長 cm	草丈 cm	販売球収量 (球)			総球数	同左比	総球重	同左比
								12cm	11cm	10cm				
オトメ	5月2日	7.6 cm	21.6 cm	7.2 mm	21.0	41.3	35.0	100	0	0	333	86.3	5.75 kg	150.0
ウィリアムピット	5月2日	6.3	21.9	6.4	21.1	46.4	42.5	31	54	12	386	100.0	3.82	100.0
ブライドオブザネンパーク	5月1日	6.4	26.3	7.0	21.8	50.0	40.5	85	9	4	148	37.7	3.52	92.1

注) 地上部調査の供試球は12cm球, 収量調査は10cm球 100株当り。

品種分類では Darwin に属する。

特性概要 花：花色は鮮赤色 (Scarlet-Red), 内花底
色は白地に紫紺色のぼかし, 花糸色は白地に紫紺色ぼか
し, 葯は黒紫色, 花粉は濃紫色である。花形は整円筒形
の硬い大輪花で, 開花期はやや晩咲である。標準 (対
称) 品種 W. Pitt に似た整った花であるが, はるかに
鮮赤色の美花で, 大きく, 開花が約4日早い。

茎葉：花梗は緑色で, 花首部がわずかにオリーブ色を
おび, 長さは中, 太く甚だ強い。葉は濃緑色, 大きさ中
の大, 縁波は少なく, やや立性で強い。茎長は約43cm,
草丈は約37cmで, 草姿は良好である。W. Pitt に似た草
姿であるが, 草丈が数センチ短く, 葉がややひらく傾向
がある。

球根：球形はやや扁球形, 外皮はやや暗赤褐色で光沢
よく, 皮厚く, 裂皮発生が少なく, 球根外観は良好であ
る。大球性で分球繁殖はやや大, W. Pitt にくらべて分
球率は同等ないしやや劣るが, 球重収量は約10%多く,
販売用大球の収量が大きい。

促成：促成感応度は大で, W. Pitt より開花が約2週
間早く, 年内促成が容易である。開花当初から鮮赤色
で, 褪せせず, はるかに美花, 花形, 草姿は甚だ良好,
35cm内外の優良切花が得られる。

その他：ウイルス病, フザリウム球根腐敗病, その他
病害に対し, W. Pitt 並みかやや強く, 栽培は容易であ
る。

用途 促成切花とくに年内切花用, 花壇用として,
W. Pitt, Red Pitt などに置きかわるべき品種と考えら
れる。

栽培上の注意事項 W. Pitt にくらべて販売球収量が
大, 病害にもやや強く, とくに問題はないが, ボトリチ
ス病防除には注意する。

命名の由来 本邦の促成用チューリップの主要品種
W. Pitt などにくらべ, 促成開花が約2週間早く, クリ
スマス用, 年末促成の主要品種となることを期待し, そ
の特性をあらわすため, クリスマスレッドと命名した。

オ ト メ

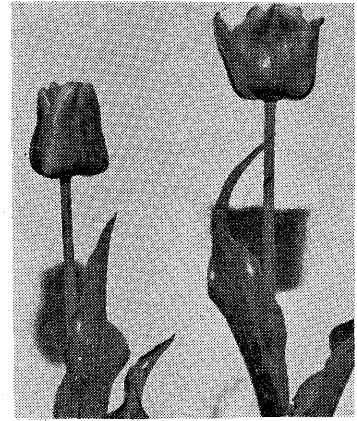
登録番号 チューリップ農林6号 (系統番号：砺波育成45号)

来歴 昭和29年, 富山農試砺波園芸分場において, ブ
ルーアイマーブル (Blue Aimarble ダーウィン 青
紫色花) にミスターバンジール (Mr. van Zijl ダーウ
ィン 桃色花) を交配し, 実生養成して選抜した。昭和
41年に, 草花がよく, 球根繁殖がよく, 有望と思われた
ので砺波育成45号を付し, 特性調査をおこなった結果,
優良と認められたので種球根の増強につとめ, 今日に至

っている。

品種分類では Darwin に属す
る。

特性概要 花：
花色は鮮明な純赤
桃色で弁縁がやや
淡い。内花底色は
白地にわずかに淡
青色ぼかしとな
り, 花糸は白色,
葯は黒紫色, 花粉
は濃紫色である。
花形はやや短い整
円筒形で花弁の幅が広く, 強く, 花縦長約7.6cmの大輪
花である。



〈オ ト メ〉

開花期は標準品種 W. Pitt 並みの晩咲である。

茎葉：花梗は淡緑色, やや長いが甚だ太く, 剛直であ
る。葉は灰緑色で, 幅広く大きく, 縁波は小さくやや多
い。葉数が多く, 葉付位置よく, 斜立し, 草丈は約36
cm, 茎長約42cm内外の高性で, 開花始期の草姿は甚だ良
好である。しかし, 満開後は花梗がやや伸びすぎて茎長
が約50cmに達するが, 最後まで曲がるようなことがな
い。

球根：球形は整球形, 外観よく, 裂皮は少ない。甚だ
大球性で, しかも分球繁殖もかなり大で, W. Pitt にく
らべて分球率は同等ないしやや劣るが, 球重収量におい
ては約50%多く, 販売用大球収量が大きい。対称品種
の Pride of Zwarnenburg よりはるかに分球率大, 販
売球の生産が容易である。

促成：促成開花は, W. Pitt より約5日早く, 開花も
安定しているが, 花梗が伸びすぎ, 花色があせて不鮮明
な桃色となるので, 早期の促成には適当でない。

その他：各種病害に強く, 発育旺盛で栽培容易である。

用途 花壇用, 露地ないし半促成切花用, 球根栽培容
易な桃色品種として, Mr. van Zijl や Pride of Zwar-
nemburg に置き替わるべき品種と考えられる。

栽培上の注意事項 球根生産力大, 病害に強く, 栽培
は容易であり, とくに問題がない。

命名の由来 本邦に導入栽培されている桃色系品種
は, 優良適応性品種が少なく問題となっているが, 本品
種は多収性で栽培容易など本邦適応性のある美桃色品種
と考えられ, かつ, その花色や花容からみて「日本の乙
女」を表徴するものとの考えから「オトメ」と命名し
た。

(富山県農業試験場砺波園芸分場)